

モザンビーク洪水

工場跡に数千人避難

岡山 AMDA医師ら報告

モザンビークで発生した

大規模な洪水について、被災者の医療救援活動から帰国した国際医療ボランティア団体AMDAの雨森明医師(三〇)東京都二〇三人は八日、岡山市檀津の同本部で会見し、「水は引いたが、家屋を流され、ある工場跡地には数千人が避難生活している」などと現地の様子を報告した。

雨森医師らは三月二十三日から二十七日にかけ、首都マップトと約二十キロ西のマトーラにある避難所で活動。約三百人を診察し、大半が発熱や頭痛など風邪の症状を訴えたという。

衛生状態の悪化からマラ

リアなどの伝染病も心配されるほか、道路が寸断されて食料などの救援物資を運べない地区もあり、引き続き支援が必要と訴えた。

同国は三月十四日現在、約三十二万九千人が被災、四百九十二人が死亡しており、雨森医師らが帰国後も第二陣としてAMDAザンビア支部の医師ら三人が、今月三日から医療救援活動を継続している。



大規模な洪水が発生したモザンビークで、谷のようになべられた地面—AMDA撮影